



共栄小だより

旭川市立共栄小学校 学校通信 令和6年度 第2号 令和6年5月31日

体験は大きな学びの場

校長 鎌田 昌記

校舎周辺の木々が濃い緑色へと変わり、夏の到来を予感させる頃となりました。校舎内は、授業中元気に発表する声や楽しそうな笑い声、のびのびと明るい歌声などがあふれ、また、中休みや昼休みともなれば、大勢の子どもたちが一斉に外へと駆け出し、グラウンドやふれあい広場で友達と一緒に元気一杯に遊んだり、教室やなかよしホールで楽しそうに過ごしたりする姿が見られます。

そのような中、去る5月18日に第38回運動会を開催しました。安全確保のため、競技途中でテントを撤収するなど、時折強い風が吹く日ではありましたが晴天に恵まれ、爽やかな青空の下、子どもたち一人一人が躍動する姿に、来場いただいた大勢の保護者やご家族の皆様から惜しめない拍手や声援をいただきました。大変ありがとうございました。

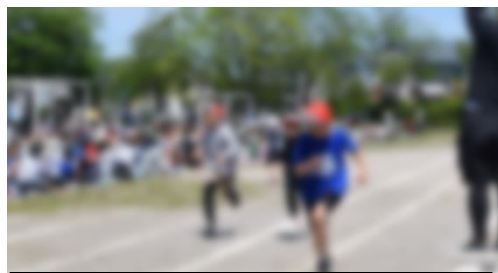
昨年に引き続き1～3年生の低学年の部と、4～6年生の高学年の部の2部制で開催しましたが、皆様方に入れ替え制へのご理解とご協力をいただいたことで、客席が混雑することなくご観覧いただけたことと思います。

どの子ども、徒競走では全力で駆け抜け、団体種目では仲間と力を合わせて競技に取り組みました。1年生の可愛らしい姿はもちろんのこと、2～6年生においては昨年の運動会の時よりも一回りも二回りも大きく成長した姿をご覧いただけたことと思います。また、6年生の子どもたちは前半の低学年の部から参加し、開・閉会式の進行や様々な係活動、後輩達への応援などで力を発揮しました。自分の持ち場に向かって全力で走ったり、懸命に応援旗を振ったり応援歌を歌ったりする姿は、見ていてとてもすがすがしく、共栄小学校の最高学年としての頼もしさを感じました。

運動会を終え、全員が反省を書きました。その中から4、6年生の4名の文の一部を紹介します。

- 『ときょう走で、初めての賞をもらいました。ふだんでも自分がまん足できるような一等賞を取りたいです。ハコハコリレーでは風が強くてなかなか運べませんでした。でもみんなで協力できたのでよかったと思いました。』
- 『せん手リレーをがんばりました。どうしてかという、勝つために一生けんめい走ったからです。これからも一生けんめいがんばることを生かしたいです。』 (以上4年生)
- 『「昼にかける」では勝てなかったけれど、だれかが泣いていたらなぐさめてあげたり、ちがう学級の人も「一組はすごい！」となぐさめてくれたりしたから、改めてこの学年は「いい学年だ」と思った運動会だった。』
- 『本番の勝利がつかめるか不安だった団体種目のタイヤひきりレー、でもみんなを信じて応援を送り続けました。私は最後の運動会を勝つことができ、気持ちをはね上がるほど嬉しかったです。』 (以上6年生)

それぞれの文からは、運動会を通して学んだことや得た満足感、仲間の良さの発見、今後に生かそうという思いなどがええます。行事(特別活動)を通して子どもたちは多くのことを吸収します。これからも行事を始め、様々な体験的活動を通して、子どもたちの学びにつなげていきたいと思っています。



ものごとに全力で取り組む姿は素敵です